令和５年度　第１回彦根市地域包括支援センター運営協議会　議事録（要約）

開催日時：令和5年8月31日（木）13時30分～15時30分

場　　所：福祉センター別館2階　集団健診室

出席者

【委員】新井議長、連副議長、平井委員、大野木委員、竹松委員（代理）、

森委員、谷澤委員、加賀爪委員…9名出席で当協議会成立。

【地域包括支援センター】すばる中川所長、ハピネス青木氏、ひらた増田所長、

ゆうじん安原所長、きらら上田所長、いなえ白谷所長

【事務局】林課長、中川主幹、近藤副主幹、吉田、関谷、中村、木下、樋口、矢田、北川、髙田

**◆開会**

**◆福祉保健部長挨拶**

**◆自己紹介・資料確認**

**◆会長・副会長**

会　長：滋賀県立大学の新井議長

副会長：彦根歯科医師会の連副議長

**◆議題**

**（１）****令和4年度彦根市地域包括支援センターの取組について**

* 事務局から説明。
* 各地域包括支援センターから、令和4年度彦根市地域包括支援センターの取組について説明。

【質問・意見】

|  |  |
| --- | --- |
| 竹松委員 | 包括いなえに質問。金銭を自己管理するのが困難な方について、上手に支援されたと思うが、具体的にどのようにされたか。また、本人が金銭管理できなかったら、どのように支援されるのか。 |
| いなえ | 支援には時間がかかった。まずは、民生委員からの相談があり、包括が訪問して実態把握を行い、どのような生活をしていて、どのようなところで困っているのかを把握した。必要な支援は、金銭を管理する支援であると判断された後、地域福祉権利擁護事業につないだ。権利擁護事業では、必要な時に、お金を受け取ってもらうという形でのお金を管理してもらう。あればあるだけ使ってしまう方だったので、ひと月のうちに何回か定期的にお金を持ってきてもらって、通帳は管理してもらう支援となった。 |
| 谷澤委員 | 地域福祉権利擁護事業とは、判断能力は低いが成年後見制度の対象にはならないが金銭管理が必要な場合は、地域福祉権利擁護事業で金銭管理を行い、無駄遣いをしないように、担当職員が訪問してお金を渡すなど、その方のお金を適切に使えるようサポートしているというもの。 |
| 加賀爪委員 | 事前資料から実施された内容の報告があったが、実施した結果どうなったのか、という所を聞きたい。総合相談業務であれば、関係者に包括のことを周知されて、より早く相談が適切にくるようにと考えられている。その辺りで、早く相談が入るようになった包括もあり、成果についての報告を期待していたが、実際には内容であり、成果の部分がなかった。ぜひ２点ほどお聞きしたい。1. 関係者に対して包括のことを周知されて、いろいろな相談が包括のほう

へ入りやすくなってきているかどうか。1. 総合事業、地域づくり、ケアマネジメント支援業務という面で、関係団

体、金亀体操の実施などを広めていくという働きかけについて、コロナ禍ということもあり、やりにくさはあるだろうが、結果としてどうだったか。 |
| すばる | 啓発はしているが、明確にすぐ相談につながったという結果が出ている訳ではない。５年前から医療機関等にも働きかけているが、実際に相談があるのは、４か所程度。啓発に行かなくても、相談・報告をしてくれる医療機関もある。啓発活動は手広くしているが、結果は出ていない。ただ、結果が出てきていないからやらない訳ではない。啓発しなければ、相談してもらえないかもしれない。そのため、成果が出ていなくても啓発している。米原市と隣接している地域、他市との境目、城西学区、旭森学区の境目も回らせてもらい、努力はしているが結果が出ているとは言えない。金亀体操グループ、見守り合いのグループにも訪問し、地域の公民館で行われる文化祭で介護保険についての啓発も行っている。介護保険を使わずに健康で過ごすということが大事であるということを周知している。それにより、明らかに改善されたという数値は出ていない。 |
| ハピネス | 包括の周知は継続し意識しているが、なかなか十分ではないと実感している。民生委員の改選で新しく民生委員になられた方も多くいる。包括が何をしているのか、改めて知っていただくため、力を入れてあらゆる機会に説明の場を用意していた。地域に出向いていると、地域の方から包括とは何か、と言われることもまだまだあるので、包括の周知はこれからも意識して取り組んでいかなければならない。金亀体操の自主グループは、コロナ禍で休止しているところも多かったが、今は、ほとんどの自主グループで再開されている。 |
| ひらた | 包括の周知については、以前に比較すると広まってきていると感じるが、新しい民生委員になって初めて包括を知ったという方も聞く。病院からの相談も非常に多いが、患者の中には入院して初めて知ったという方も多い。まだまだ周知が足りない。出前講座など、こちらから出向いて、周知していく必要があると感じている。コロナ禍の間に、金亀体操自主グループ、地域サロンが中止になっているところが多く、住民が行くところがなくなっている。そうして介護保険利用へと進んでいくケースもある。コロナ禍でもデイサービスがやっているなら行きたいと、言われる方が増えている。金亀体操自主グループも、コロナ禍の間に、代表者が辞められている場合もあり、もう一度やろうと働きかけている。 |
| ゆうじん | なかなか包括の周知ができていない。大きな病院からの相談はタイムリーに入ってくるが、個人病院からの相談は少なく、周知活動に関わらず、介護認定を受けていない方、つながっていない方についての相談がある。コンビニ・小さな商店から、相談とまではいかないものの支援が必要なケースについて職員へ話をしてもらえることもある。老人福祉センターの方から相談を受けるケースも増えている。周知の結果、地域の方の意識によるものと感じている。地域の活動については、金亀体操自主グループに年１回フォローアップ講座に行っているが、コロナ禍でなかなか活動されていない現状である。金亀体操については、代表が交代され次の担い手がいないというところもあるが、サロンがせっかく立ち上がったが再開できない、再開するパワーもないところもある。昨年度は月一回サロンの時間をいただき、運動するなど金亀体操に限らず地域できる活動を継続できる方法を模索している。 |
| きらら | 総合相談については、民生委員、地域住民から直接相談が入ることが増えてきているが、対応は内容による。内容を把握した上で対応を検討しているので、少しは成果があげられているのではないかと考えている。地域の活動については、地域差があるが、高齢化が進んでいる地域では取組が進むが、若者が多い地域では理解が得られにくい。介護保険のことを含めて地域によっては講座の内容を検討している。講座に入る機会も増えつつあると考えている。 |
| いなえ | 単位民生児童委員定例会で時間をもらい、包括や介護保険の説明等を行い、顔の見える関係を作れた。敷居を高く感じておられるのか、些細なことでも相談していいのだろうか、どんなことを相談したらいいのかと、民生委員自身が思われている。とりあえず分からないから包括に、という窓口になれるという周知はできているのではないかと思う。啓発活動により劇的に変わったというものではないが。コロナ禍ということもあったが、活動を再開されている。関係性を作る中でいろいろと効果があったと感じている。 |
| 新井議長 | みなさん苦労されている。一気に全てはできないが、ここまでできたら来年はここ、というように、成果を示していただけるとよいかと思う。 |
| 事務局 | 地域包括支援センターの認知度については、８期での地域包括支援センターの認知度は、３割程度となっている。今回、９期にかかるニーズ調査時は、認知度５８．２％になっている。周知のために、チラシ等作成しながら周知を進めていきたい。 |
| 辻委員 | 出前講座を開催し非常に忙しい中でご苦労が多いかと思うが、肌感覚的でよいので、出前講座の参加状況、参加された方の反応、意見などあれば教えていただきたい。 |
| いなえ | ３年ぶりに開催。割と多く集まっていただいた印象。行事の一部として実施したので、聞きたくて来たという人ばかりではない。町によっては積極的に参加され、意識が高い。本当に聞きたいという方は半分くらいかと思う。参加された方には、熱心に聞いてもらった。 |
| きらら | 10～30名程度。地域によっても差があり、中には熱心な方もいるが、自分には関係ないことだというような、興味なさそうな方もいる。 |
| ゆうじん | 老人会などの集まりの際に包括が参加している。参加者は熱心に聞いてくれている。人数は会場規模にもよるが、15～20人。 |
| ひらた | 健康に関すること、少し運動を入れてほしいという要望がある。民生委員が一生懸命活動されている。 |
| ハピネス | 認知症の出前講座を受けられる方は、意識の高い方が多い。 |
| すばる | 認知症の出前講座はなかった。どういう風に声をかけていけばよいか課題になっている。金亀体操は、公民館、アルプラの４階で実施。その他、各自治会で呼ばれる講座もあり、社会福祉協議会の地域支え合い推進員と一緒に参加し、介護保険利用や地域で支え合って生活していこうというテーマで、介護予防の話をさせてもらったりした。人形劇をビデオで撮っており、それを単位民生児童委員定例会で活用してもらっている。 |
| 辻委員 | いなえの「町の行事に当てはめる」というところで、私もそのような教室に行っている。高齢者向けの話をする中、7月、8月に依頼がたくさんあり、その中でも包括に頼んでいいのか、という相談があった。金亀体操について案内をした。金亀体操を知らない方もいらっしゃったので、包括に問い合わせがあるかもしれないので、よろしくお願いしたい。 |
| 大野木委員 | 金亀体操のマンネリ化について、リーダーが考えてやらないと、なかなかみんながついてこない。みんなはしたいと言うができないという時に、リーダーが考えてやることが大事だと考えている。リーダーが学びに行き、みなさんに伝えるということを実践している。包括が地域に根付いていない。知らない人も多い。相談に行ったらいいと言うが、知らない方が多い。もっと皆さんに知っていただければよいと思う。 |
| 森委員 | 民生委員して10年となる。うちは、すばる担当学区で、平和堂があり、高齢者の事件が起こるので、私が駆け付けて、手に負えないとなり、すばるに来ていただいて、警察、救急車、全て呼ぶ状況であった。すばるのお蔭で10年かかったが解決という方がいらっしゃった。うちの民生委員も今度の改選で半分交代する。体操は、続けられるか心配。コロナ禍で終わってしまっているものもある。月1回の定例会を行っており、そこで、包括支援センターを知らないというのは、そこのやり方もあると思う。困ったことがあったら包括に相談するようにと伝えている。定例会後の相談会でこういうこと困っているという話を聞いたらすばるにと案内しているので、包括を知らないという民生委員はいないと思う。包括があるということを、知らないというのはない。包括には数知れずお世話になっている。頭が下がる思い。 |

**（２）　令和5年度彦根市地域包括支援センター運営方針・事業計画について**

* 事務局から運営方針、自己評価、実態確認、事業計画について説明。
* 各地域包括支援センターから令和5年度事業計画のポイントについて説明。

【質問・意見】

|  |  |
| --- | --- |
| 谷澤委員 | 地域も、包括の認知度は知っている人もいれば、ご存じでない方もいらっしゃる。サロン活動などの、意欲の高い活動に目を向けていらっしゃる方は包括に期待している方が多いと思う。今後ますます包括の役割が増大すると思われる。地域になじまないこともあるが、地域にあった関わり方、相談の仕方、サポートの仕方がある。連携として包括が地域にあったサポートのやり方があると思う。社会福祉協議会は個別ケースを持たないので、先端の部分が見えてこない。包括は個別ケースに関わりを持っておられるので、社会福祉協議会が見てる面の部分と包括が見ている点の部分を併せてやっていきたいと感じている。 |

**（３）令和5年度介護予防支援業務委託事業所（案）について**

* 事務局から説明。

　　　全委員により承認

**（４）その他**

|  |  |
| --- | --- |
| 辻委員 | 資料の事業所39番の大阪の事業所についてどういった形態の事業所か。 |
| ハピネス | 12回ではなく12か月。市内で独居であり、娘は大阪在住のケース。 |
| 新井議長 | 案のとおり委託することを承認。 |
| 平井委員 | 資料12番の笑ケアプランセンターは継続されるのか。 |
| 事務局 | 昨年途中から指名停止となっている。 |
| 新井議長 | 資料12番については、今年度の委託はしないため、38か所で承認する。 |
| 新井議長 | 周知の課題等出ているが、少ない人員で、個別ケースに関わっていけるのは包括であり、努力されている。独自で周知は難しい状況もある。小学校・社会福祉協議会との連携、他の機関との連携で、お互いに協力し合って地域発展のために地域の顔として、包括が周知していけるように協力をお願いしたい。地域の実情は違うため、地域の特性、課題、強みを取り入れながら、ネットワークづくりをしていただきたい。この場で話し合いができるということが第一歩。さらに活発な活動になるようにご協力をお願いしたい。 |

**◆連絡事項**

各委員へ評価表提出のお願い。

**◆閉会**